―――――――お知らせ―――――――

シーメンス LMEGP パラレルコリメータ(感度重視型)での QSPECT Dual Table ARG 法検査実施について

QSPECT&DTARG 法ご使用の先生方には大変お世話になっております。
この度下記のとおり、シーメンス LMEGP パラレルコリメータ(感度重視型)での QSPECT&DTARG 法検査実施について開始することとなりましたのでご連絡いたします。よろしくお願いいたします。
国立循環器病センターとシーメンス旭メディテック株式会社は、ガンマカメラ画像診断装置の SPECT 断層画像の品質維持管理向上を目的として検討を進めてきましたが、これまでのデータより下記保守の実施をすることにより画質の向上を見込める可能性を認めています。
よって、シーメンスLMEGP パラレルコリメータ(感度重視型)での QSPECT&DTARG 法検査実施について開始することといたしました。
先生方におきましては、ファントム実験前に(BCF、CCF 測定実験)高カウント固有均一性補正を必ず実施していただき、これまで同様ファントム一様性を確認する手続きをとっていただくようお願いいたします。

＜保守の実施内容＞
以下の保守の実施をお願いいたします。
下記保守内容は、「JESRA X-67A 1998 ガンマカメラの性能の保守点検基準」においても、定期的な実施を推奨されています。
ご不明な点がございましたら、装置添付の簡易マニュアル(簡易取扱説明書)、または シーメンス旭メディテック株式会社サービスセンターまでお問い合わせください。

【測定時期】
QSPECT 用 CCF, BCF 測定直前、または、その前日

【測定項目】
・ピーキング;
点線源より発せられる放射線から、その核種におけるシステム内のエネルギーピーク値を較正する。コリメータを外した状態で実施。
所要時間は約 5 分。推奨の実施頻度は毎日。

・Fine チューニング;
点線源より発せられる放射線を測定し、検出器のゲイン(増幅率)を微調整する。コリメータを外した状態で実施。
所要時間は約 5 分。推奨の実施頻度は毎日。

・高カウント固有均一性補正(200 million counts);
点線源より発せられる放射線を測定し、検出器の均一性補正データ(Monthly Intrinsic Flood)を収集する。コリメータを外した状態で実施。
所要時間は約 50 分。実施頻度は 1 回/月。

【測定手順】
①ピーキング
②Fine チューニング
③ピーキング
④高カウント固有均一性補正

＜添付＞簡易マニュアル
ピーキングと Fine チューニング、固有均一性管理について 3-1
ピーキングと Fine チューニングを行う 3-2
高カウントの固有均一性管理(200 million counts)を行う 3-9

2008 年 12 月吉日